

児童発達支援における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月28日

事業所名 倉吉東こどもの発達デイサービスセンター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		限られた空間を工夫しながら活用している。必要に応じてパーテーションを使用する等して環境構成をしている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		国の指定基準を満たし、保育士、公認心理師、臨床心理士等の専門性を備えた職員を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		療育室は刺激となるものを減らし、集中できる環境を整えている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日清掃、消毒を行い、清潔な環境を心掛けている。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、個別課題毎に室内、備品等の消毒を徹底している	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員間で意見を出し合いながら改善のための取り組みを行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎年保護者アンケートを実施し、意向の把握と改善に努めている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		センター便りとホームページにて公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		外部の評価も受けながら必要に応じて業務改善を行っている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内外での研修に加え、スーパーバイザーを交えた事例検討会も行っている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		適宜、子どもの姿を評価しながら個別課題を設定している。またケース検討を実施し、保護者のニーズと子どもの課題を客観的に分析した上で計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		他機関からの情報を共有した上で状況を把握することが多いが、必要に応じて検査も実施している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」に即した支援内容を個別支援計画に表記しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		個別支援計画に沿って支援をするよう心掛けている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員間で話し合いながら決めている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの実態に合わせて新しい課題や活動を行えるように工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		○	個別療育が主な支援であるが、同時間に利用されている他児との遊びを課題に設定する等し、子どもの実態に合わせて計画を作成している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		管理システム、共有ノート等を用いて確認することができている。職員のタイムスケジュールを作成し、役割分担を明確にしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援後には、子どもの姿を職員間で共有し、課題の振り返りや気づいたことについて話し合うようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		課題ごとの様子を日々記録することで、子どもの現在の発達を理解したり、課題の見直しにつなげている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回の頻度で計画の見直し(評価)を行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者や担当者等、適任者が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		こども園・学校等関係機関とノートを共有して情報共有を行ったり、利用児が集団生活を営む場へ訪問したり、支援会議に参加したりと必要に応じて連携している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			当事業所は対象となる利用者はいない。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	移行支援会議に参加し、情報共有と相互理解を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		研修に参加したり、必要に応じて助言を受けるなど連携を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できなかったが、例年は併設するこども園の園児を当センターの行事に招待している。	今後は行事等で交流を図る機会を作っていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		要請があれば参加している。関連するものとして要保護児童対策地域協議会に参加している。また、地域での障がい啓発活動等で要望があれば講師派遣を行うように登録をしている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		観察室から子どもの様子を保護者と一緒に観察しながら、個別課題の意図を伝えたり、子どもの姿、課題を共通理解したりしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	ペアレントトレーニングとしては実施していないが、職員が保護者とともに観察室から個別課題の様子を観察することを通して、子どもの姿の理解や対応方法について助言している。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に丁寧に説明を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		丁寧に説明を行い、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		子育てに関する悩みに応じながら、適切な関わり方を助言している。必要に応じて、スーパーバイザーによる「子育て相談」を利用することもできる。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できなかったが、例年は保護者会の行事の案内や連絡調整を必要に応じて行っている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や申し入れがあった場合、電話や面談にて迅速かつ丁寧に対応するよう努めている。また、意見受付箱を設置し、対応体制を整えている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月お便りを発行している。保護者だけでなく、子どもたちの通う園や学校にもお便りを配布し、情報を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の取り扱いには十分に注意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		事前に予告したり、大事な内容は視覚的に示しながら伝えたりする等の配慮を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		お楽しみ会等の行事では、併設の園児を招いたり、利用児童に関係する一般の方々も招待している。	今後は行事等で交流を図る機会を作っていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各マニュアルを策定し、職員に周知している。保護者にはわかりやすい形に作り変えた上で、待合いや観察室に掲示している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月様々な災害を想定した防災訓練を行い、職員間で動きを確認し合っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		利用前のアセスメントや、医療・健康情報を保護者に記入してもらうことで把握している。服薬がある場合は与薬依頼書をその都度記入していただいている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			食事提供は行っていない	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		会議の際に、職員間でヒヤリハット事例を共有するようにしている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		子どもの行動への理解や対応についての事例検討会をスーパーバイザーを交えて行っている。子どもの姿を理解し共有することで虐待防止につなげている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		やむを得ず身体拘束を行う可能性のある児童に関しては、状況や対応方法を計画にも記載している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。